太さに惑わされずノコギリの刃が横向きになる（切り口がより上を向く）枝を成敗。

手順③コブとり作業

■仕上げはコブとり

枝分かれしているところや芽のあるところで切った切り口は植物が自分で殺菌剤作って切り口を守る。

枝の途中で切ってコブを残すとコブの部分が病気の巣になってそこから腐りが木の芯に入っちゃう。

だから剪定の仕上げに、コブとり作業をやってあげてね。

作業2　イノシシの隠れ家あばき

次にやったのはイノシシの隠れ家あばき。

まだまだ、「畑をあらすイノシシは山からやってくる」なんて思ってる人多いけど、畑や畦を掘り起こす遊びをやるイノシシってだいたいその至近距離の茂みを隠れ家にしてる。

隠れ家が民家や畑から数メートルって場合も多い。

山下さんちの電柵モデルは畑への侵入防いでるけど、今回切ったウメの木の周りはまだイノシシの遊び場になってる。

理由はウメの木のそばにタケやツバキのような灌木（かんぼく）の茂みや隠れ家があるから。

前回、今回と少しずつ、隠れ家あばきをやってる。タケや灌木、すべて伐採するのは大変だから、ちょこちょこっとイノシシの目線にある枝を切り落として「ここで寝てたら丸見えだよおー」って見通しを広げるだけでいい。

曲集落通った時は、ちょっと車をとめてどんな感じか、見学しておいてね。

曲集落の不思議

大崎町でやってる講習会って毎回、初めて参加するって人が多いから、基本的な考え方の座学を野方にある活性化センターでやる。

で、そのあと山下さんちの圃場に移動。

はっきり言って座学は圧倒的に男性が多い。「女性が参加しない獣害対策の研修、何回やってもダメなんだから」って言ってもなかなか女性は増えない。なのに、なのに、曲集落で実習はじめてみると、いつの間にか母ちゃん、ばあちゃん、女性がまるで湧いてきたかのように増えてる。

しかも、手に手に道具もってやる気がみなぎってる。

「こんな枝は、切った方がいいよね！」

「あーっ、それじゃない、その上、その上」って賑やか。

そして、早う帰って覚えてる間に切ろうって言うから「習ってきたから切ってあげるねーって近所の木を切ってあげる。よその木でさんざん練習して上手になってから自分ちの木を切る！」ってあたし。

一同、大爆笑。

そこで、また気づく。最初からこんなに女性いたかしら？

女性が増えるという曲集落の謎、今回やっと解けた。車の運転できない人も多いから、座学の会場の徳満さんから「そろそろ、そっちへ移動するぞー」って連絡がはいって、女性たちの連絡網が回るみたい。

わかってみれば素敵なお話、最終回に書けてよかった。

雅ねえ、1年間寄稿していただき、ありがとうございました！
（町担当者）

講師紹介　井上（いのうえ）　雅央（まさてる）氏

1949年、奈良県出身。
愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士（農学）。
元 農研機構 近畿中国四国農業研究センター 鳥獣害研究チーム長。
退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。
著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハダニ』『女性がすればずんずん進む獣害対策』（いずれも農文協）など多数。